

令和7年度 山形県立小国高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校 訓「自律・忍耐・向上」		「挑戦、ともに！」						
メインテーマ								
学校教育目標		1 郷土に誇りと愛着を持ち、学び続けながらよりよい地域づくりに主体的に関わる人材を育成する。 2 健康で豊かな人間性を持ち、新たな価値創造に挑む人材を育成する。 3 多様性や個性を認め、他者を尊重しながら協働できる人材を育成する。						
学校経営方針		小規模高校のよさを生かし「生徒一人一人が輝き、笑顔と感動を地域と分かち合う学校」づくりを実現する。 *** 育成したい資質・能力 *** (学校教育目標の実現のために) 1 主体性 「自己理解・自己肯定感・学ぶ意欲・計画力・意思ある選択・創造的市民性」 2 挑戦心 「情報収集活用力・課題設定力・共感性・思考力・創造力・行動力・やり抜く力・伝える力・振り返る力」 3 協働力 「受容力・対話力・共創力・持続可能性意識・グローバル意識」				達成度 A. 達成できた B. ほぼ達成できた C. やや不十分である D. 不十分である		
重点目標	重点目標の達成度	重点取組	学年	重点取組に対する具体的方策	重点取組の達成度（中間）	重点取組の中間進捗状況	重点取組の達成度（年度末）	重点取組の達成度（年度末）の評価の根拠：年度末に実現された生徒や学校の姿 等
1 体系的な 充実と 多様な キャリア 教育の 推進		○ 本校の特色である「白い森未来探究学」や「教科等横断的な学習」、「国際教育」の実践・深化により、本校生に育みたい資質・能力を伸ばす。 ○ AI学習システム活用を含め、ICTを活用した個に応じた指導、学習の個性化、協働的な学びの充実を図り、「確かな学力」を育む。 ○ 地域や企業・大学等と連携したキャリア教育や体験的教育活動の推進により、キャリア意識を醸成する。 ○ 個々の進路希望の実現のために、意欲的・計画的に学習に向かう態度を涵養する。 ○ 図書館等の活用や NIE実践により高い教養と豊かな心を醸成する。	1年	○「白い森未来探究学」や「全国高等学校小規模校サミット」等においての地域の方や外部の方との対話を通し、協働的な態度の育成と自己の将来について考える機会を設定する。 ○LEAFシステムを活用し、個に応じた指導や学習環境を提供する。 ○進路情報や入試情報を提供し、生徒一人一人の進路希望に合わせた個別面談を行う。 ○朝読書を実施し、落ち着いた環境の中で授業を受けることができる環境づくりを行う。また、新聞を用いて時事問題や社会問題を認識させる。				
			2年	○年間を通じてマイプロジェクト（探究学習）を実践し、計画力・行動力・やり抜く力を向上させる。台湾研修旅行を通じて日本と異なる歴史・文化・習慣を学び、グローバルな視点を養成する。 ○朝学習・授業・家庭学習でICTやスタディサプリなどを活用し、学習意欲を喚起させ学力向上を図る。 ○インターンシップにおいて事前・事後指導を行い、就業観や卒業後の進路について深く考察させる。夏季休業中に積極的にオープンキャンパスに参加させ、学習意欲を促進させる。 ○進路情報・入試情報・模試結果などを提供し、個別面談において進路実現のために必要なことを把握させる。 ○図書館資料や新聞記事を用いて時事問題、社会問題を知る機会を設ける。				
			3年	○教科等横断的な視点を持った教科学習・進路学習・探究学習を設計し、往還しながら汎用的な力を育てる。 ○朝学習や授業での観察を通して、生徒一人一人の学び方の傾向や特徴を把握し、進路学習や探究活動での指導に生かす。 ○企業人面接・地域の大人と語る会・キャリアに関する出前講座等を実施し、ありたい自分や進路について考えられるようにする。 ○生徒に寄り添った面談を定期的に実施するとともに、進路実現に向かう流れを可視化して示し、見通しをもたせながら進路指導を行う。 ○朝学習・進路学習・探究学習の中で、生徒の探究テーマや進路希望に関連する切り抜き速報の新聞記事を活用し、幅広い視野を持たせる。				
2 資 生 徒 ・ 一 人 能力 を 高め る 意 志 の 発 達 を 促 す 、 社会的 参 与		○ あいさつの励行や基本的生活習慣の確立に向けた援助・助言により、自律した社会人としての基礎固めを行う。 ○ 異なる立場や考え、価値観を理解し互いに活き活きと学校生活を送れるような取組を工夫して行い、自己及び他者を個性的な存在として尊重していく心を育てる。 ○ 学校行事やボランティア活動等への主体的な取り組みを奨励し、生徒一人一人の自己有用感を高める。 ○ 継続的にいじめ防止対策を徹底することで、いじめのない学校を目指す。 ○ 社会とのつながりを生かし、地域との協力した放課後活動の充実・継続を行う。	1年	○起床・睡眠時間の固定や朝食の有無など基本的な生活習慣を確認し、自己管理ができる生徒を育てる。 ○自己の命を大切にするとともに他者を尊重する態度を育成し、生徒一人一人の居場所がある学年作りを行う。 ○授業や生徒会活動において、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、多様な意見に触れ、互いの意見を尊重できる機会を設ける。 ○生徒のやりたいことを尊重し、校内外の多様な機会を紹介しつつ、「挑戦する心」を大事にさせる。 ○生徒観察やアンケート調査等により、いじめの早期発見やチーム体制での早期対応を行う。				
			2年	○個々の心身の特徴に合わせて助言・支援をし、社会人として必要な力を着実に身に付けさせる。 ○授業や生徒会活動などにおいて、グループワークを積極的に取り入れ、多様な意見に触れて認め合う場を設ける。 ○クラスマッチや学校祭などの学校行事において、生徒が企画・運営に主体的に関わる機会を設けたり、ボランティア活動を随時紹介したりして参加・挑戦を促す。 ○生徒観察・アンケート調査・面談などにより、いじめの早期発見や複数名体制で速やかに事案に対応する。 ○生徒のニーズを把握し、関係する放課後活動への参加を呼び掛ける。				
			3年	○互いに心地よく生活するための約束事を守らせるとともに、自己管理能力を育むために生活習慣や心身の状況把握に努める。 ○違いがあっても当たり前という感覚を持たせ、感情をコントロールしながら対話を通して合意形成していくプロセスを経験させる。 ○生徒の探究テーマや進路希望に関連する活動や地域人材を積極的に紹介し、社会の一員としての意識を持たせる。 ○人権感覚を育み、誰もが尊重されるべき存在であることを互いに認め合う集団づくりを推進する。 ○四年制大学進学希望者等に対して白い森学習支援センターの講座への受講を積極的に促す。また、生徒の興味関心や進路希望に応じて地域活動への参加を推奨する。				
3 安全・安心・学校づくり信頼		○「地域とともにある学校」としてのコミュニティ・スクール運営やPTA活動を実施し、学校・家庭・地域が一体となった活動を工夫して行う。 ○ 特色ある教育活動や生徒の活躍の姿について発信方法を工夫し、学校の魅力を校内外に積極的に伝える。 ○ 危機管理体制の維持及び施設設備の安全管理により事故防止に努める。	1年	○心身に配慮が必要な生徒のみならず、生徒の悩みを早期に把握するために、年3回以上の定期的な面談を行う。 ○学校と家庭との連携を深めるために必要に応じて随時家庭と連絡を取り合うとともに、学校行事や生徒の活躍を、月1回さくら連絡網やプリントを用いて配布する。 ○学校で行われる避難訓練や安否初動訓練だけでなく、森林火災など小国町近隣で起きている災害を意識させることで、危機意識を持たせる。				
			2年	○朝のあいさつ運動・研修旅行説明会・各種発表会などにおいて、家庭・地域との交流の機会を設ける。 ○学年通信・HP・SNSなどを通じて、教育活動内容や生徒の様子、活躍を定期的に発信する。 ○地震・火災を想定した避難訓練に加えて、外国や日本各地で発生した災害を取り上げて生徒に伝えることによって、危機管理意識を向上させる。				
			3年	○地域の大人と語る会や地域構想学発表会など地域人材と連携した活動において、生徒と地域の大人がともに自身の生き方や町の未来を見つめ、学び合える機会となるようにする。 ○家庭や地域との協働関係を促進するために、月1回のさくら連絡網での学年通信配信および積極的なSNS発信を通して、本校の教育活動や生徒の学びの様子を届ける。 ○すべての活動において身体面に配慮が必要な生徒の対応事項に漏れないように徹底するとともに、生徒が落ち着いて活動できる環境整備を心掛ける。				